

株 主 通 信

第50期中間期

2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日

目 次

進化を続ける三菱UFJリースグループのビジネス…	1
株主の皆様へ	2
決算の概況	3
三菱UFJリースグループの事業	5
日立キャピタルとの合併を通じた経営統合について…	7
配当政策について	9
会社情報／株式情報	10

2021年3月期～2023年3月期

中期経営計画

～ Sustainable Growth 2030 ～

「アセットビジネスの
プラットフォームカンパニー」
への進化

アセットに対する知見を活かして 国内外で事業領域を拡大

三菱UFJリースグループは、コア事業であるリース・ファイナンスを通じて「アセット」に関する知見・ノウハウを蓄積し、強みを活かしてさまざまな事業へと取り組みの幅を広げています。

2018年3月期～2020年3月期

中期経営計画

Breakthrough for the Next Decade

～今を超え、新たな10年へ～

新たな価値創造

- 資産回転型ビジネスの推進
- 事業運営モデルの実現

2015年3月期～2017年3月期

中期経営計画

Evolution

～限りなき進化～

収益機会の拡大

- 国際展開の加速
- 事業参画

2012年3月期～2014年3月期

中期経営計画

Vision 2013

バリューチェーン上の
提供機能拡大

- グローバルアセット事業展開の加速
- 高付加価値サービスの提供

2007年4月

三菱UFJリース誕生

コア事業
リースビジネス

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2021年3月期第2四半期（2020年4月1日～9月30日）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、本年4月にスタートした中期経営計画~**Sustainable Growth 2030**~において掲げた「アセットビジネスのプラットフォームカンパニー」を目指し、注力分野である「グローバルアセット」、「社会資本」、「再生可能エネルギー」の3分野を中心に、将来の事業基盤強化に資する各種施策を着実に進めました。グローバルアセット分野では、エアバスのベンチャー企業支援投資ファンドであるAirbus Ventures Fund III LPに出資し、社会資本分野では、アンテナシェアリングを運営する株式会社インフォステラへ投資を行いました。また、再生可能エネルギー分野では、複数のメガソーラー発電所で運転を開始しました。新型コロナウイルスと共存する中で社会・お客様が大きく変わろうとしています。その変化を注視しつつ、新たな取り組みを通じて得られる知見とこれまで培ったノウハウを融合させ、社会的課題への対応を加速させてまいります。

当社は、来年4月1日に日立キャピタルと経営統合する予定です。両社は、それぞれ強みとするビジネス領域や事業展開地域などにおいて、重複の少ない理想的な相互補完関係にあります。一つの会社になることで、多様な経営課題を抱えるお客様、さらには社会に対して、従来のリース会社の枠を超えた新しい価値の提供を目指します。

株主の皆様からのご期待とご信頼に応えるべく、今後もグループの力を結集し、企業価値向上に努めてまいります。

変わらぬご支援とご理解を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2020年12月

取締役会長
白石 正



取締役社長
柳井隆博



決算の概況

(金額単位：億円)

	2020年3月期 第2四半期	前年同期比増減 (増減率)	2021年3月期 第2四半期
売上高	4,687	-405 (-8.6%)	4,281
売上総利益	977	-171 (-17.5%)	806
営業利益	544	-224 (-41.3%)	319
経常利益	553	-221 (-40.0%)	331
親会社株主に帰属する 四半期純利益	382	-140 (-36.6%)	242
契約実行高	7,978 ^{※1}	-2,940 (-36.9%)	5,037

<決算実績>

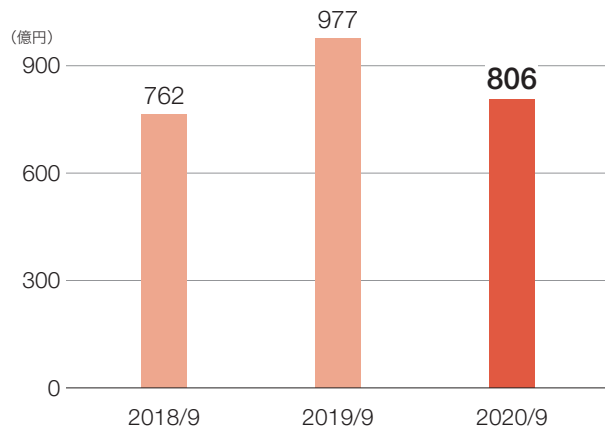
- 売上総利益は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、航空関連においてストック収入・アセット売却益が前年同期比減少したほか、長期資金の先行的調達に伴う資金原価の増加等もあり、前年同期比17.5%減少。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、日立キャピタルとの統合関連費用や貸倒関連費用等が増加した結果、前年同期比36.6%減少。

<契約実行高>

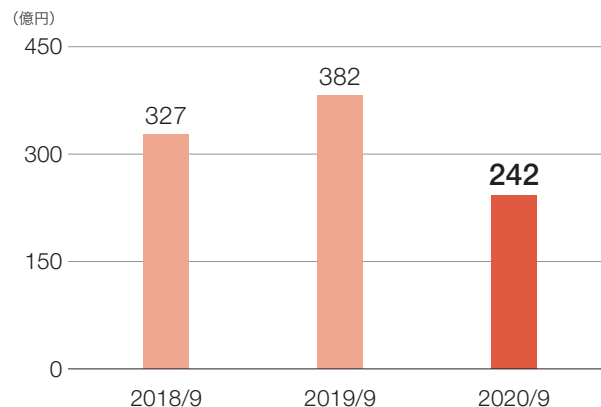
- 不動産関連において、前年同期に計上した複数の不動産再生投資・不動産リース案件の反動減のほか、航空関連において、前年同期に計上した複数の航空機リース取引の反動減等もあり、前年同期比36.9%減少。

※1 契約実行高の定義変更により、第49期中間期株主通信の数値から変更：9,655億円→7,978億円

■ 売上総利益



■ 親会社株主に帰属する四半期純利益



(金額単位：億円)

	2020年3月期	前期末比増減 (増減率)	2021年3月期 第2四半期
純資産	7,988	-44 (-0.6%)	7,943
総資産	62,859	-1,349 (-2.1%)	61,510
自己資本比率	12.4%	+0.2P	12.6%
営業資産残高	52,483 ^{※3}	-466 (-0.9%)	52,016

＜総資産、純資産の状況＞

- 総資産は、現金および預金の減少により、前期末比で2.1%減少。
- 自己資本比率は、現金および預金の減少により、前期末比0.2ポイント増加。

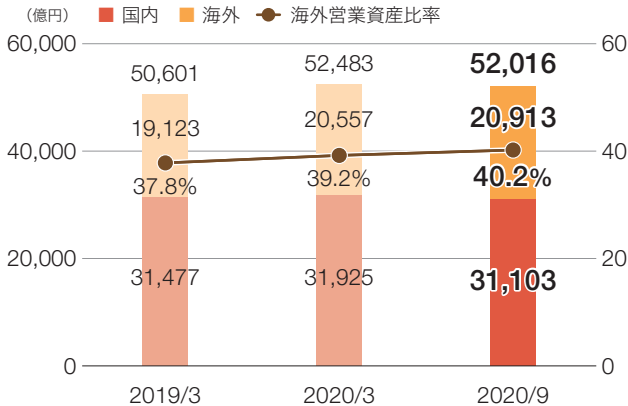
＜営業資産残高^{※2}＞

- 契約実行高の減少や為替影響等により、前期末比0.9%減少。

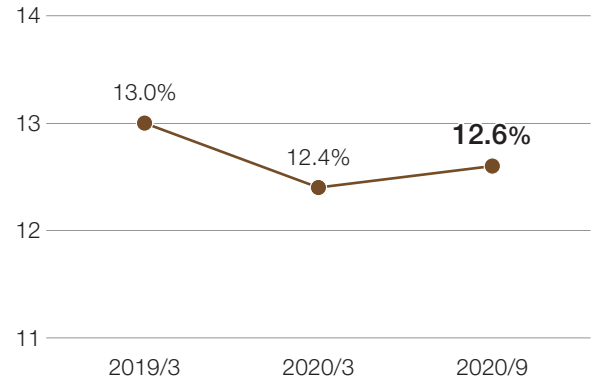
※2 当社における営業資産残高とは、リースに係る債権や資産、割賦債権および貸付金等の総額のことです。営業資産残高は、お客様からのリース料等の回収に伴い売上となることから、将来の売上の源泉となります。

※3 営業資産残高の定義変更により、第49期株主通信の数値から変更：52,284億円→52,483億円

■ 営業資産残高(国内外別)

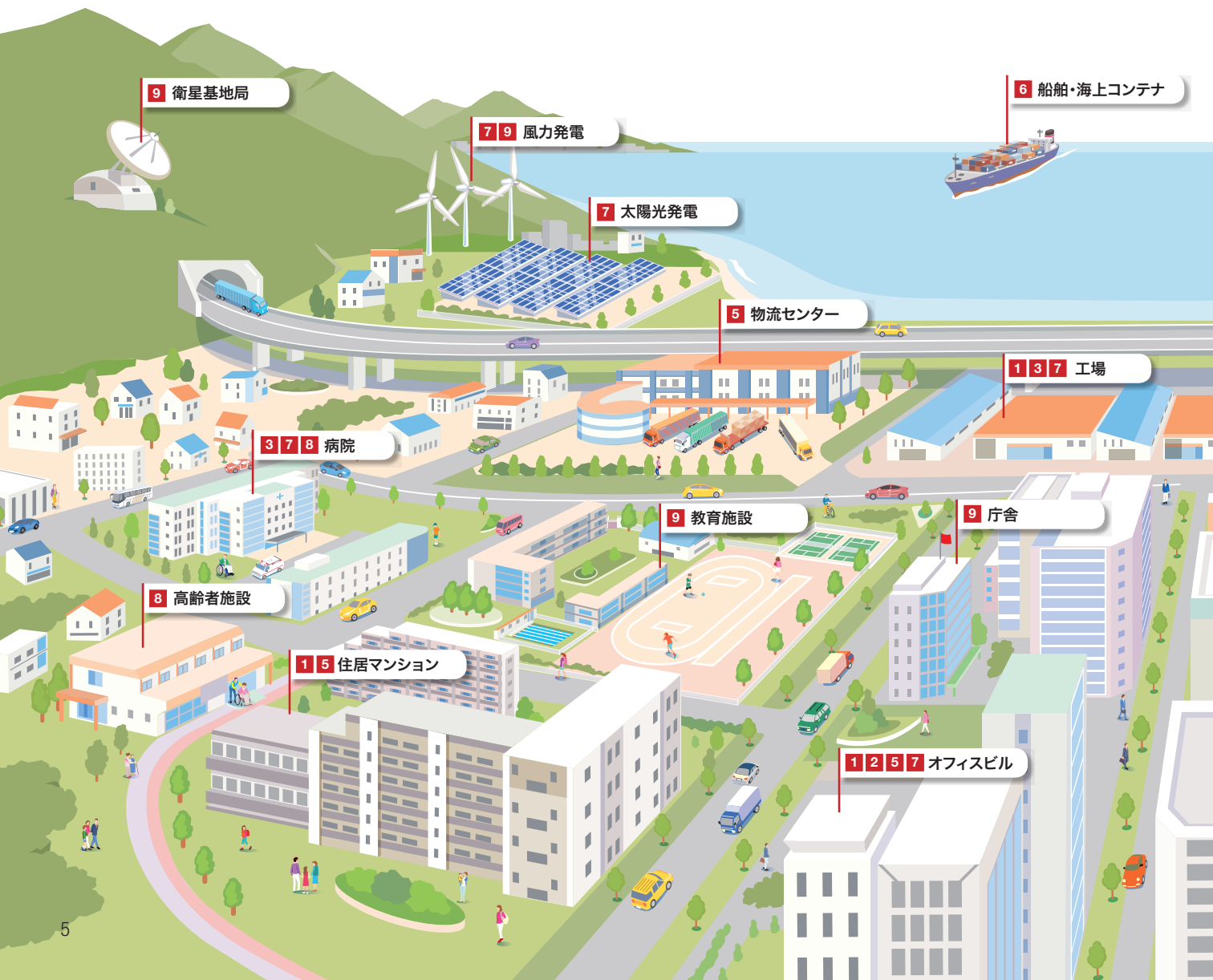


■ 自己資本比率



三菱UFJリースグループの事業

三菱UFJリースグループは、リース・ファイナンスをコア事業として、多彩な事業をグローバルに展開しています。



1 リース・ファイナンス

6 ロジスティクス

2 レンタル

7 環境・エネルギー

3 中古機器売買

8 ヘルスケア

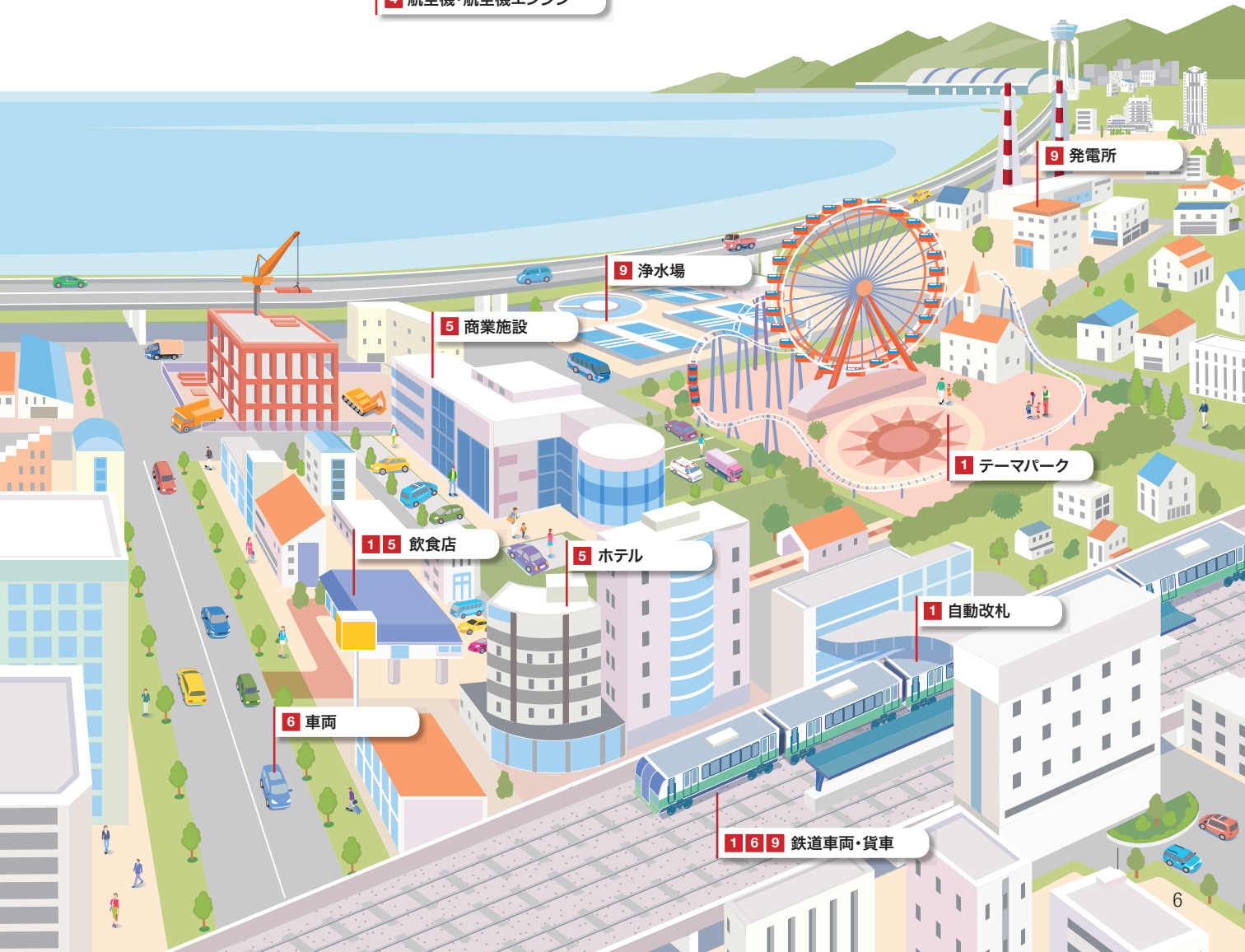
4 航空

9 インフラ・企業投資

5 不動産



4 航空機・航空機エンジン



日立キャピタルとの合併を通じた経営統合について

三菱UFJリースと日立キャピタルは、2020年9月24日に、合併を通じた経営統合（以下、本経営統合）を発表いたしました。

両社は2016年5月の資本業務提携に基づき、ジャパン・インフラストラクチャー・イニシアティブ株式会社（以下、JII）設立による海外インフラ投資事業の強化などの協業を推進するとともに、経営統合を一つの選択肢に、その関係強化に向けて、継続的に協議を重ねてまいりました。その中で、JIIのビジネスが順調に進捗していることや、両社の事業に重複が少なく理想的な補完関係にあることを認識いたしました。その上で、大きな環境変化にいち早く適応し、先進的なアセットビジネスの領域をさらに開拓していくためには、合併を通じた経営統合が最適と判断し、相互尊重・公平の精神、ならびに建設的な姿勢をもって検討を進め、本経営統合の合意に至りました。

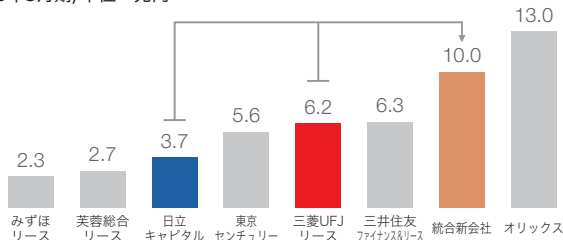
本経営統合により、両社はビジネス領域の相互補完及び経営基盤の強化を行うことができ、規模、領域ともに業界屈指のグローバルプレイヤーとなります。本経営統合後の新会社（以下、統合新会社）は、世界各地でリース会社の枠を超えた先進的なアセットビジネスを展開、お客様に新たな価値を提供し、持続的な社会価値の創造を実現してまいります。

■ 本経営統合後の統合新会社の概要

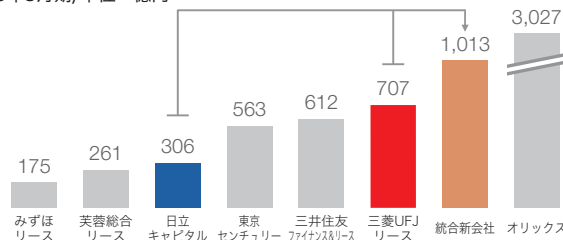
商号	三菱HCキャピタル株式会社
本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
代表者の役職・氏名（予定）	取締役会長（代表取締役）川部 誠治 取締役社長（代表取締役）柳井 隆博
事業内容	各種物件のリース、各種物件の割賦販売、各種ファイナンス業務
資本金	33,196百万円
決算期	3月31日
会計基準	日本基準

■ 本経営統合後の姿

総資産 10兆円
2020年3月期/単位：兆円



純利益 1,000億円超
2020年3月期/単位：億円



■ 本経営統合の目的

両社は、それぞれの中期経営計画の中長期ビジョンに掲げているとおり、環境変化に適応した豊かな社会の実現に向けて、社会的課題の解決を通じた持続的な企業価値向上を目指してまいりました。

本経営統合により、統一されたビジョン・理念のもと、一つの会社として事業を展開することで、「(i) ビジネス領域の相互補完」、「(ii) 経営基盤の強化」、さらに、これらをベースとした「(iii) 新たな価値創造」を実現し、より力強く成長してまいります。



(i) ビジネス領域の相互補完

- ✓ ビジネス領域、展開地域双方におけるポートフォリオの分散
- ✓ 強固で安定的な収益基盤の構築
- ✓ 強化される体力を活かした投資活動の拡大



(ii) 経営基盤の強化

- ✓ 両社が有する資源・ノウハウの結集
 - ― 人材（財）の活用・強化
 - ― パートナー・ネットワークの活用
 - ― 財務基盤強化
 - ― リスクマネジメントの高度化
 - ― デジタル化の推進



(iii) 新たな価値創造

- ✓ 従来のリース会社の枠を超えた新しい価値の提供
- ✓ 業界屈指のグローバルプレイヤーとなり、拡大する規模と蓄積される資本を活かし、世界各地のお客様や地域社会に貢献
- ✓ 新時代の社会的課題解決企業に成長

「(i)ビジネス領域の相互補完」は、両社がそれぞれ持っている強みが背景にあります。三菱UFJリースはコーポレートファイナンスに加え、不動産やグローバルアセット等のアセットビジネスに強みがあります。日立キャピタルは販売金融に加え、日立ビジネスや英国のコンシューマーファイナンスを含む海外地場ビジネスに強みがあり、理想的な相互補完関係にあります。

両社の特徴	特徴	三菱UFJリース	日立キャピタル
		コーポレートファイナンス	販売金融
		日本に強み	欧州に強み
		不動産ビジネス (証券化ファイナンス、不動産投資)	日立ビジネス (重要な金融パートナー)
	グローバルアセット (航空、鉄道貨車、海上コンテナ)	海外地場ビジネス (UKコンシューマーファイナンス等)	
共通の注力 重点分野		社会インフラ、環境・エネルギー、モビリティ等	

■ 本経営統合の日程

経営統合契約及び合併契約締結に関する取締役会決議日及び契約締結日	2020年 9 月24日
臨時株主総会基準日公告日	2020年12月16日
臨時株主総会基準日	2020年12月31日
臨時株主総会決議日	2021年 2 月下旬（予定）
本経営統合の効力発生日	2021年 4 月 1 日（予定）

配当政策について

基本方針

当社は、**自己資本充実とのバランスに留意しつつ、継続的かつ安定的に配当を実施**することを利益配分の基本方針としています。

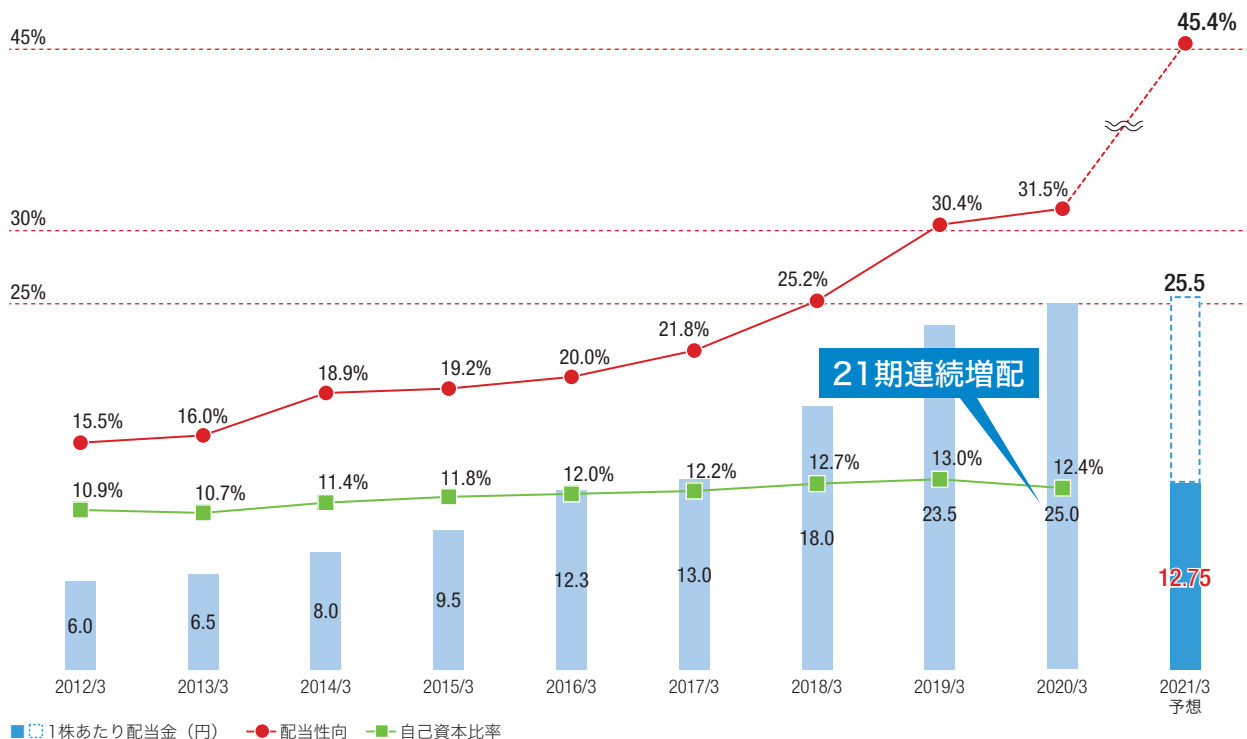
21期連続増配の実績も踏まえた上で、1株あたり配当金を前期比50銭増配の25円50銭と予想しております。

◆2021年3月期**中間**配当金

12円75銭

◆2021年3月期年間配当金（予想）

25円50銭

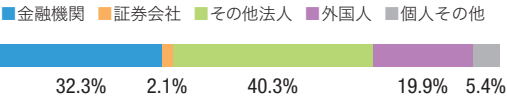


株式情報

主な株主

三菱商事株式会社
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行
明治安田生命保険相互会社
三菱UFJ信託銀行株式会社

株式所有者別分布状況



※自己株式は「個人その他」に含めて記載しています。

役員

取締役

取締役会長	白石正
*取締役社長	柳井隆博
*取締役副社長	占部利充
*専務取締役	野々口剛
*常務取締役	下山陽一
取締役	箕浦輝幸
取締役	拝郷寿夫
取締役	鴨脚光眞
取締役	林尚見

監査役

常勤監査役	鈴木直人
常勤監査役	三明秀二
常勤監査役	松室尚樹
監査役	中田裕康
監査役	皆川宏
監査役	金子裕子

(注1) *の取締役は執行役員を兼務しております。
(注2) 箕浦輝幸、拝郷寿夫、鴨脚光眞、林尚見は、社外取締役です。
(注3) 中田裕康、皆川宏、金子裕子は、社外監査役です。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部
期末配当金受領株主確定日	3月31日	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.lf.mufg.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に公告いたします。)
中間配当金受領株主確定日	9月30日		
定時株主総会	毎年6月		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-7111 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部		

住所など届出事項の変更、 配当金振込先の指定、 単元未満株式の買取請求、 その他各種手続き	●証券会社の口座に当社株式が記録されている株主さま 原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、お取引の証券会社等にお問合せください。 ●特別口座に当社株式が記録されている株主さま 上記三菱UFJ信託銀行にお問合せください。
未受領配当金の支払	三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
<https://www.lf.mufg.jp/>

